

季報

二松学舎大学附属図書館
quarterly report



当館所蔵 『浮世床』『熱海土産温泉利書』

目次

- ❖ P2 韓明基『光海君』『丙子胡乱』1・2 渡邊了好
- ❖ P3 浙江工商大学での集中講義 五月女肇志
- ❖ P4 秋の読書案内ー経済学編 岩田幸訓
- ❖ P5 図書館を使う!レポート・論文の書き方ワークショップ／
ビブリオバトル開催／新スタッフ紹介
- ❖ P6 選書ツアーを開催しました
- ❖ P7 館内展示のご案内(柏)／レファレンスの窓
- ❖ P8 図書館だより

No.90

2014(平成26)年
11月

韓明基『光海君』『丙子胡乱』1・2

文学部 国文学科 教授 渡邊 了好

韓国を学び始めて40数年が過ぎた。にもかかわらず、言葉もそれ以外のこともこんなにも分からないのかと、がっかりすることもあるが、いまだに面白くてならない。言葉も面白いが「韓国」が面白い。「韓国」というのは大韓民国だけでなく、半島全体と半島に関わる日本、中国、ロシア、アメリカを含む「歴史と今の全て」を指している。

私が韓国に住み始めた1976年は朴正熙の時代で「経済成長」が韓国人の最大の関心事だった。私は列車の名前でそれを実感した。ソウルと釜山を繋ぐ一番料金の高い列車は「セマウル号」だった。「セマウル」は「新しい村」で「セマウル運動」は農村の近代化を目指す政府主導の国民運動であった。「統一号」の料金はその次なのだ。統一より経済成長だと国民に知らせているのだと思った。

今の「韓国」はどうか。今の「韓国」の全ての根底に有るのは中国であろう。何年か前は「いずれ韓国は中国の一部になってしまうのか」との危惧が活字になったが今はそういう声はない。それが現実になりつつあるからだろう。

韓国という国は、昔も今も原則として外国人に不動産の所有を許さない。例外は大韓民国建国以前から住んでいた華僑だけで面積を制限して住居用の土地所有を許したと聞いている。私が住んでいた時も土地は勿論、アパートを買うこともできなかった。ところが、数年前から済州島で中国人だけを対象に、一定以上の投資をした者に土地を含む不動産の取得を認めることになったのだ。

今年の夏、済州島を訪れた。前回訪れた3年前に比べて、中国の進出ぶりは凄まじかった。中国人用マンション群、マンションに住む人々のためのショッピング街、中国人対象のホテル、等々。不動産仲介業者も中国人なら、中国人旅行者のためのホテルも中国資本であった。済州市の中心部には中国資本のカジノを有する高層ホテルができつつあった。中国資本によって済州島の地価は上がり続けている。

韓明基は李朝史の専門家で、『光海君』（2000）、『丙子胡乱』1・2（2013）は、14代宣祖（1568~1609）、

15代光海君（1609~1623）、16代仁祖（1623~1649）までを扱う歴史の叙述である。

韓明基は宣祖、光海君、仁祖までの朝鮮の状況が、現在の大韓民国の外交の選択の参考になるとして、朝鮮王朝実録をはじめとする当時の資料を駆使して、日本・明・清・朝鮮の16世紀末から17世紀前半までの時代を克明に描き出す。

当時の朝鮮は「壬辰倭乱」の被害を被った直後、仁祖の代に明と清の狭間で「昇る清、沈む明」という国際情勢を読み違え、丁卯胡乱、丙子胡乱の悲劇を招いた。故に大韓民国は今度こそ選択を誤ってはならない。「昇る中国、沈むアメリカ」。これが現在の韓国のほとんどの人の見方であろう。韓明基はこの見方に賛同しているわけではない。彼の本の面白さは、当時光海君が清の興隆と明の没落を見抜き、大被害を受けた日本と講和を結んで南の憂いを断ち、明と清の情報収集と自主国防に力を尽くした姿と、彼を排除した仁祖とその支持勢力がいかに現実への対処を誤ったかを、資料によって冷静に述べているところにある。光海君の日本観は冷静で「海を挟む日本は地続きの大国より危険が少ない」と考えていた節がある。『丙子胡乱』はこの種の固い本としては異例の2万部以上を売ったというが、私がこの夏に韓国を訪れたのもこの本を買うためであった。『光海君』は14年前、時を忘れて読みページが残り少なくなると寂しくなった。『丙子胡乱』も二冊からなる厚い本だが買って直ぐ読み始め帰りの飛行機でほとんど読み終えた。誰にでも面白いかどうかは知らないが私には面白い。それは私にとって宣祖・光海君・仁祖と彼等を取り巻く登場人物は、今日本の私の周囲に実際にいる人々よりはるかに親しい人々であるからだろう。そのくらい私は朝鮮のこの時代にのめり込んでいる。

浙江工商大学での集中講義

文学部 国文学科 准教授 五月女 肇志

9月15日から23日まで本学と提携関係にある中国杭州市にある浙江工商大学の日語学院で集中講義を行った。海外勤務ということであれば、これまで東欧のハンガリーで2度講演をしたことがあったが、中国に行くのは初めてであったので、そのことについて記したい。出張先の浙江工商大学は広大な敷地を持つ総合大学で、日本の学部にあたる「学院」ごとに建物が分かれている。私がお世話になった日語学院は日本語の研究・教育を行う部署である。校地は杭州市街から離れた場所にあり、近辺に他の多くの大学が軒を連ねていた。現在地下鉄工事が進められ、開通すれば一層発展すると思われた。中国語を話せるわけではなく、実際現地では全く通じなかったが、当学院の先生方、学生さん達の協力もあって、大学に求められている国際化推進の一環としての仕事を何とか務めることができた。政治的に現在の日中関係が大変難しい状態にあるのは周知の通りだが、そのように感じさせられることは一切なかった。全寮制で、大学食堂は土曜、日曜も開いており、昼食、夕食はほとんどそこを利用した。

科目名は「日本文化」で、専門とする古典文学だけでなく、旧石器文化から平成の文化まで、日本史の中で「文化」と名のつくもの全てを解説した。1コマは45分で1日3コマ、計24コマの授業だった。大学から渡された名簿を見ると、3年生45名が登録していた。ただし、日本に留学中などさまざまな事情で、実際の出席者は40人弱だった。受講生は2年間、日本語のトレーニングを経てきており、授業は全て日本語で行った。語学力はかなり身についているようで、授業終了後のリアクションペーパーを読むと、細かい点まで聞き取っている箇所も見られた。それでも受講者の要望や意見を読むと、当初の予定通り板書に基づいて授業を進めるのは学生の負担が大きいと判断して、プリントを改めて作り直し、日本で見ていた留学生のテキストをイメージして振り仮名を多くつけた。中国の教室に設置してあるスクリーンは白色でなく、消灯しカーテンで遮光することをしなくても、鮮明に画像が見えるので、パワーポイントを活用し、日本の仏像や建築、絵画の写真を実際に見て貰うことで、その美しさを理解するように努めた。作家

や芸術家の肖像も数多く見せた。

やはり日本のアニメーションなど現代文化に関心の高い学生が多いようで、AKB48の姉妹グループの一つ、上海のSHN48の総選挙の写真を見せると、知っているアイドルがいたのか、最も高い関心を示していた。滞在期間中、空港への送迎や資料の印刷などでお世話になった学生も、アニメーションを見て、日本語を覚え、将来は出版文化の盛んな東京に留学してそこで就職したいといっていた。

授業終了後、すぐにホテルに戻り、プリントの文言を入力し、パワーポイントのファイルを作成する毎日であった。杭州は風光明媚な観光地として知られているものの、行楽にでかけるといふ余裕は全くなかった。それでも日本に大きな影響を与えた朱子学や文人画などが生み出された南宋時代の都を訪問できたのは感無量であった。

授業を始めた9月15日はちょうど新学期が始まった日で、秋入学の中国ではちょうど新入生歓迎の看板や掲示を、それぞれの建物に見ることができた。ただし、新入生には男女を問わず、入学後半月ほどの全員軍事教練が義務づけられており、大学構内で士官の指導の下、迷彩服を着用した上で、整列行進などが行われていた。それでもかつてより期間は遙かに短くなったそうである。食堂や商店に入っても、迷彩服の新入生を数多く目にした。戦前はともかく、現在の日本では全く見られない光景である。万が一戦争が起これば、当然このような若い人達が多く犠牲になる。そうならないように今後も自分の方でできる限りの努力をして外国との交流を進め、相互理解を深めなければならないと決意を新たにさせられた。

秋の読書案内－経済学編

国際政治経済学部 国際政治経済学科 准教授 岩田 幸訓

私は、毎年少しずつではあるが、より充実した講義を目指して講義の内容やその重点を変更するなど、新しいアイデアや工夫を試行錯誤しながら講義に導入している。最近では、学生の興味関心を維持させつつ、どのように経済学を教えるかということを課題として講義の改善に取り組んでいる。私の講義には、経済学を勉強するうえで避けて通れない、やや技術的な話が数多く登場する。そのためだろうか、学生の中には、経済学全体に対する講義の位置づけを見失い、次第に経済学への興味を失っていく者もいるようだ。

経済学は細かい論理を積み上げて理解するため、経済学の概要を掴むための大雑把な議論と経済学的な考え方を身につけるための詳細な説明を両立させることが非常に難しい。概要を掴むことは経済学に興味を持たせる入口としては重要であるものの、それだけでは自分で経済学的に考える力は養われない。そこで、ある程度の厳密さを失わず、経済学の概要を掴んでもらうために講義を工夫しなければならない。しかし、これは非常に高度な技量を必要とすることである。

この問題を解決するために、私は経済学に共通する前提や問題意識を講義中にできるだけ説明するようにしている。しかし、時間の制約上、多くの時間を割いてそれらを解説できないのが現状である。そこでここでは、経済学の目的や意義、あるいは最先端の経済学分野といった、通常の講義では十分説明できないテーマを補完するのに最適な書籍をいくつか紹介する。これらの書籍は、私の研究室の書棚からできるだけ読みやすいものを選んでいますが、中にはある程度の読解力を必要とする書籍もあるので、一度だけでなく、何度も読み返してその内容をぜひ理解してもらいたい。また、経済学の優れた教科書は世の中に数多く存在しているので、本学の図書館でそれらを読み比べながら、自分にあった教科書を探すとよいだろう。

さて、これから書籍を紹介する前に、経済学の概要を掴むうえで有益な概念を説明する。経済学の目的を一言で表すならば、「より良い社会とはどのような社会か解明すること」であると言ってよい。そのためには、まず複雑な経済社会がどのような仕組みで動いているのか理解する必要がある。さらに、「より良い」とはどういう意味なのか、望みしらの価値基準を提案する必要がある。このように、経済学の課題は大きくこの二つの問題に分類される。ここでは、前者を経済学の「実証的問題」、後者を経済学の「規範的

問題」と呼ぶ。

以上を踏まえて、私が最初に紹介する書籍は、『経済学に何ができるか－文明社会の制度的枠組み』（猪木武徳著、中公新書、2012年）である。この書籍は、経済学の歴史と思想を踏まえながら経済学の論理の役割と限界を解説している。この書籍の特徴は、「人間研究」と「理論と政策の関係」を中心に据えて、経済学の実証的問題を強調し、規範的問題は抑制的に書かれていることである。

他方、『使える！経済学の考え方－みんなをより幸せにするための論理』（小島寛之著、ちくま新書、2009年）は、経済学の規範的問題に焦点を当て、「幸福」、「自由」、「平等」といった価値基準を解説している。この書籍の特徴は、数学を使って議論することの利点を強調していることである。同様の書籍に『幸せのための経済学－効率と均衡の考え方』（蓼沼宏一著、岩波ジュニア新書、2011年）があり、あわせて読むと理解が深まるだろう。

さらに、近年影響力を増している考え方に「メカニズムデザイン」がある。より良い社会を実現するためには、社会的に合意される価値基準を提案するだけでは不十分であり、その目標を遂行するための仕組みを設計しなければならない。つまり、実行する手段のない目標は絵に描いた餅なのである。この問題に興味のある読者は、『日本の難題をかたづけよう－経済、政治、教育、社会保障、エネルギー』（荻上チキ他編、光文社新書、2012年）に収録されている、「社会を変える新しい経済学－マーケットデザインの挑戦」（安田洋祐著）と『マーケットデザイン－最先端の実用的な経済学』（坂井豊貴著、ちくま新書、2013年）を参考にするとよいだろう。

最後に、経済学は伝統的に合理的な経済主体を前提としてきたが、さまざまな経済実験から、実際の人間は必ずしも合理的に行動するわけではないということが明らかになっている。そこで、人間の認知のくせや行動のバイアスを取り込むために、経済学は心理学との結びつきを強くしており、「行動経済学」という分野が急速に発展している。その概要を解説した書籍として『行動経済学－感情に揺れる経済心理』（依田高典著、中公新書、2010年）をあげておく。また、『知の最先端』（大野和基編、PHP新書、2013年）に収録されている、「その「選択」があなたの人生を変える」（シーナ・アイエンガー著）でもその一端をうかがい知ることができるだろう。

図書館を使う！レポート・論文の書き方ワークショップ

昨年度につづき、上記タイトルの講座が6/23、24、26の三日間実施されました（内容は三日とも同じ）。タイトルにあるように、レポートや論文の書き方について、丸善株式会社のライティング・アドバイザーを招いて、3～5人一組のグループワーク形式で行われました。

参加した学生さんからは、「わかりやすかったです」、「大変参考になりました」、「レポート・論文の書き方がわかったので、今後実践して書くことに慣れていきたい」という感想をいただきました。また、「課題図書についてのレポートの書き方を知りたい」、「読みやすい文の作り方を知りたい」というご意見もいただきました。



ビブリオバトル開催

7/13日（日）オープンキャンパスのイベントの一つとして、ビブリオバトルが開催されました。発表者が読んで面白かった本を5分間で紹介し、2分間の質疑応答の後、発表を聞いた観客が一番読みたいと思った本を選ぶビブリオバトル。文学部から国文学科1年滝澤さん、中国文学科1年武藤さん、国文学科2年西さん、馬場園さん、国文学科4年吉田さんの5名が、オープンキャンパスの来場者を観客として挑戦してくださいました。

推薦する本も違い、表現方法もさまざまという中、観客が一番読んでみたい本に滝澤さんが紹介してくれた『これはペンです』が選ばれました。滝澤さんには11月に行われる柏市立図書館と市内の4大学（本学、東京大学、日本橋学園大学、麗澤大学）で行われるビブリオバトルに、本学代表として出場していただきます。

新スタッフ紹介

九段図書館に
新しいスタッフが参りました。
ひと言ご挨拶を
させていただきます。

高橋 拓矢（九段）

9月から九段図書館にて勤務しています。皆さんが「また来たい！」と思える図書館を目指して頑張ります。

夕方から夜にカウンターにいますので、気軽に声をかけてくださいね！

選書ツアーを開催しました

本学図書館では、5月と9月に選書ツアーを行いました。選書ツアーは昨年度から始まった企画で、合計3度行われましたが、毎回定員数にすぐに達する人気企画です。選書ツアーとは、学生さんが図書館に所蔵して欲しい本を直接書店で選ぶことです。3度とも丸善丸の内本店で行われました。金額や選書基準という制限を設けてはありますが、自分で図書館に必要と思われる本を選べる貴重な機会となっています。

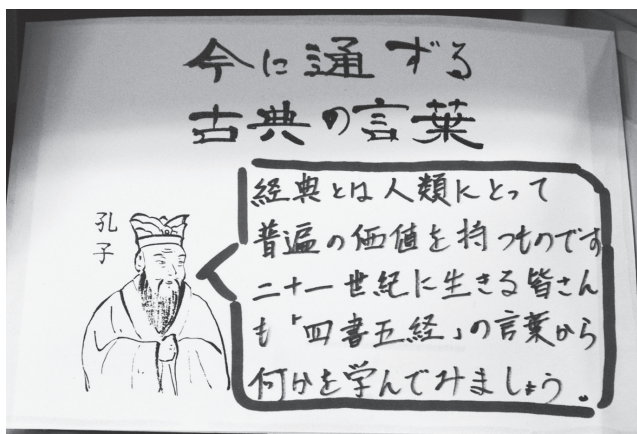
参加した学生さんが選んだ本は、一定期間図書館入り口で展示されます。下の写真は5月に選書されたものを展示した様子です。



展示されている本には、右の写真のように選んだ学生さんが、手ずから創意工夫したポップを作り、本の紹介をしています。

参加した学生さんからは、「楽しかったです」、「色々な本を見ることが出来ました」、「来年も参加したいと思った」、「本を選ぶことの難しさと面白さを知りました」などの感想をいただきました。

次の機会を逃すことなく、学生の皆さん奮ってご参加ください。



館内展示のご案内（柏）

柏図書館では、2階入口ホールにて「医学の歴史がわかる本」・「医師・元医師が書いた本」の紹介をしています。（写真は後者のもの）

本学文学部 町泉寿郎教授による講演「森鷗外が描いた幕末明治の医者たち」（11/1 開催）に関連する資料、主なものとして、『ワークショップ曲直瀬道三―古医書の漢文をよむ―』『馬王堆出土文献訳注叢書 五十二病方』等、また、日本・中国を含めた医学の歴史がわかる資料、森鷗外・手塚治虫・海堂尊・夏川草介等の著作本を展示しています。

本展示は11/15（土）まで行われています。



レファレンスの窓

学生の利用者より、以前こんな質問がありました。

「杜甫の『○○』という詩の日本語訳があるかどうか知りたいのですが。」（○○は忘れてしまいました……）

はてさてどうしたものか、日本語訳のある本を一つずつ見てもらうしかないのかな、と思っていたところ、便利なものがありました。国立国会図書館主題情報部〔編〕『参考書誌研究』（雑誌、請求記号 020.5-S）70 号が「中国詩詞翻訳索引 VI 唐・五代」となっていました。凡例によると、「本索引は、唐・五代の詩人の作品で邦訳されたものを作者別に集め、その詩がどの本の何頁に収載されているかを示したものである」とあり、「明治初年（1868）以降平成17年（2005）末迄に刊行された中国詩を含む図書で、比較的多くの作品を収載しているものの中から選んだ」とあります（単独の作者の翻訳書は除いています）。つまり、この書の「杜甫」の項目に目的の詩があれば、その日本語訳があり、さらにどの本の何頁に載っているかもわかるということです。

タイトルに「VI 唐・五代」とあったので調べてみたところ、「I」から「V」までもありました。「I 宋代」は『アジア資料通報』31 巻 1 号にあるようですが、こちらは残念ながら本図書館には所蔵がありません。しかし、「II 遼・金・元代」、「III 明代」、「IV 清代」、「V 先秦～隋代」は、前出の『参考書誌研究』の 58 号、61 号、62 号、63 号にそれぞれ掲載されています。また、同書 75 号は「日本漢詩翻訳索引」となっております。

図書館だより

図書館カレンダー 開館日・開館時間は変更することがあります。詳しくは図書館ホームページをご覧ください。

九段図書館

11月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30						

8:40～21:50

9:00～16:50

閉館

12月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

8:40～21:50

9:00～16:50

閉館

1月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

8:40～21:50

9:00～16:50

8:40～16:20

閉館

2月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28

9:00～16:50

閉館

柏図書館

11月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30						

9:15～16:30

閉館

12月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

9:15～16:30

閉館

1月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

9:15～16:30

閉館

2月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28

9:15～16:30

閉館

※11/24(月)は授業開講のため開館(九段)。

※1/15(木)はセンター試験準備のため16:20閉館(九段)。1/16(金)はセンター試験準備のため、17(土)は、センター試験のため閉館(九段、柏)。

※2/2(月)は入試のため閉館(九段、柏)。2/16(月)は入試のため閉館(九段)。

編集後記

「季报」90号をお届けいたします。今号でも3人の先生にご執筆いただきました。諸先生に御礼申し上げます。

表紙の本は「ボール表紙本」と呼ばれるものです。その呼び方の通り、ボール紙を表紙にした本です。

(S・A)

二松学舎大学附属図書館

季報

第90号

発行日 平成26(2014)年11月1日

発行 二松学舎大学附属図書館

九段図書館 〒102-8336 東京都千代田区三番町6-16

電話:03-3263-6364

柏図書館 〒277-8585 千葉県柏市大井2590

電話:04-7191-8758

印刷所 株式会社 サンセイ

電話:03-5227-8333